

『社会資本の活性化を先導する歩行圏コミニ』

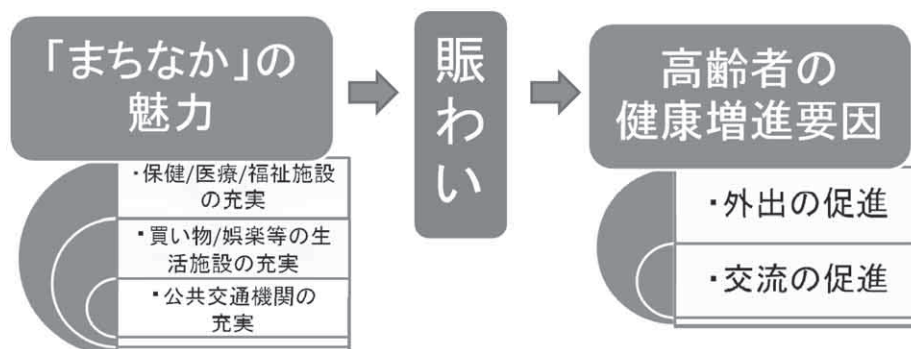
平成23年度「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」
研究開発領域第1回シンポジウム

社会資本の活性を先導する 歩行圏コミュニティづくり

富山大学 大学院医学薬学研究部
地域看護学講座
中林 美奈子

研究開発の背景

■ 高齢者の健康支援において、都市中心部(まちなか)居住の推進が重要な課題である。





富山大学大学院 医学薬学研究部 准教授 なかばやし み な こ **中林 美奈子**

研究開発の背景

■富山市のまちづくり

ー公共交通を軸としたコンパクトなまちづくりー

・公共交通の活性化

・公共交通沿線地区への居住促進

・中心市街地活性化



富山市商業中心地区「グランドプラザ」前を走るセントラム



ICカード(セントラム用(右)/コミュニティサイクル用(左))



高齢者向けマンション



会員制コミュニティサイクル



温泉水を活用した介護予防センター

研究開発の背景

■高齢者の現状

・身体機能の低下に伴い、生活圏は町内会程度。「まちなか」生活を満喫できていない。

【地域活動参加高齢者を対象とした調査】

➤外出頻度減少感を有する割合・・・27.5%

➤外出頻度減少の理由

歩行が不自由	・足(腰・膝)が痛い ・歩くと疲れる ・長時間歩けない/立ってられない
外出意欲の低下	・おっくう ・行きたいところがない

プロジェクトの概要

■富山市星井町地区(中心市街地)

■整備された「まちなか」のインフラを活用し、高齢者が元気な時はもちろん、虚弱になっても積極的に街に出て、活発に交流し、生活を楽しむことのできる歩行圏コミュニティを形成する。

■歩行圏コミュニティ形成の成果(仮説)

- 1) 星井町地区高齢者個々人の活動性が高まる。
- 2) 星井町地区が活性化する。

■歩行圏コミュニティ成立の条件(仮説)

- 1) 虚弱高齢者が楽に歩ける「街歩きツール」がある。
- 2) 高齢者(虚弱/元気)が歩きたくなる「仕組み」がある。

プロジェクトで取り組むこと

1. 虚弱高齢者が楽に歩ける「街歩きツール」の提供と効果の評価

【実施】

- ・対象: 虚弱高齢者
- ・介入: 歩行補助車の貸出し

【評価】

- ・評価デザイン: RCTによる評価
- ・評価指標:
 - ①活動性(身体面・心理面・社会面)
 - ②交流



本プロジェクトで試作した自立支援型歩行補助車で外出する高齢者モニター

富山県立総合衛生学院保健学科卒業後、富山県職員（保健師）として地域保健に従事。国立公衆衛生院専攻課程修了、富山大学経済学部卒業、同大学院経済学研究科地域経済政策専攻修了（経済学修士）、同大学院生命融合教育部生体情報システム科学専攻修了（工学博士）。1996年富山医科薬科大学（現富山大学）看護学科助手、1999年同講師、2007年富山大学大学院医学薬学研究部准教授。専門は公衆衛生看護。個別的な対応や個人の努力だけでは解決しない健康問題を解決するための組織的・環境的支援のあり方の探求が課題。最近の関心領域は生活習慣病予防、虚弱化予防。

プロジェクトで取り組むこと

2. 高齢者（虚弱/元気）が歩きたくなる「仕組み」の提供と効果の評価

【実施】

- ・対象：星井町地区の人々
- ・内容：①星井町地区と商業中心地区を結ぶウォーキングロード
②そこを歩きたくなる工夫（歩行補助車カスタマイズ工房 & カフェ、公共用歩行補助車設置、健康イベントの実施等）

【評価】

- ・評価デザイン：前後比較デザインによる評価、プロセス評価
- ・評価指標：
 - ①地区高齢者の活動性（身体、心理、社会）
 - ②コミュニティの活性化（交流、協働、広がり）

産学官連携のプロジェクトメンバー

